

安全データシート(SDS)

作成日: 2024年 2月5日

供給者の会社名 : レイメイ株式会社
住 所 : 東京都江戸川区中葛西3丁目18番7号 1階
電 話 番 号 : 03-6808-1246
F A X 番 号 : 03-6808-3622

製 品 名	ECOseries 万能洗淨剤	
推 奨 用 途	多目的用洗淨剤	
使用上の制限	推奨用途以外には使用しない	
物質の特定 (単一製品・混合物の区別)	混合物	
構成成分名	植物由来天然高分子多糖体(補酵素) ※1 ポリエチレングリコール グリセリン ヤシ脂肪酸アルカノールアミド(ヤシ脂肪酸系非イオン界面活性剤) オレイルエーテル(ヤシアルコール系非イオン界面活性剤) メチルフェニルポリシロキサン グリセリルモノステアレート アルキルベタイン(ヤシ脂肪酸系両性界面活性剤) トルマリン処理水、電解アルカリイオン水 官報公示整理番号(化審法・安衛法)既存化学物質で構成されている。 PRTR法:非該当品 安全衛生法:非該当 毒劇法:非該当 (※PRTR法:特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律) (※安全衛生法:労働安全衛生法) (※毒劇法:毒物及び劇物取締法)	
※1	ガラクトース、マンノースからなる天然多糖体及びグルコース、マンノースからなる天然多糖体をヒドロキシルプロピル化し、一部グルクロン酸を含めグリコール及びオレイルエーテル水溶液中に分散溶解せしめたヘテロ多糖体。(セルロースの一種で補酵素)	
危険有害性の分類	分類の名称 危 険 性 有 害 性	分類基準に該当せず 危険物成分なし 体質によって眼への刺激性が感じられることがある
応 急 措 置	眼に入った場合 皮膚についた場合 吸引した場合 飲み込んだ場合 その他	清浄な水で洗い流し、必要に応じて医師の診断を受ける。 水で十分洗い流す。 呼吸器官に変化は起こらないが、何らかの異変を感じたときは医師の診断を受ける。 多量の水を飲ませ、医師の診断を受ける。 使用中、眼に異常を感じたり、せき込んだり、気分が悪くなった時は直ちに使用を止め、洗眼、うがいをする。 その後、医師の診断を受ける。
いずれの場合も、医師への受診時には製品または安全データシートを持参する。		
火 災 の 措 置	可燃性ではない	
漏 出 時 の 措 置	漏出物を回収するか、またはウエス等で拭き取る。残部は水でよく洗淨する。	

取扱及び 保管上の注意	取 扱 い	・火気に対し危険はない。 ・作業や製品容器の取扱い時には必ず適切な保護具(保護眼鏡・保護手袋・保護靴・保護衣・保護マスク等)を着用する。 ・使用時は換気を良くする。 ・キャップを開けるときに液が飛び出すことがある。また、容器を移動する時はキャップをしっかりと閉める。緩んでいると液が跳ねて眼や皮膚に付く事がある。 ・飛散した液やミストを吸い込んだり、眼に入らないようにする。 ・他の薬剤、洗浄剤などとは絶対に混ぜない。 ・アルミニウム製の食器類や漆器の洗浄を避ける。 ・銅・銅合金・すず・亜鉛製の物品の洗浄、接液を避ける。	
	保 管	・倒したり、こぼしたりしないように注意する。 ・子供の手の届かないところに保管する。 ・品質保護の為、高温多湿を避ける。 ・酸性物質と同じ場所に保管しない。	
ばく露防止及び 保護処置	ばく露性はない	設備対策：ミスト、蒸気などが滞留しないように局所換気措置または全体換気装置を設置する。取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。	
	保 護 具	吸引用保護具	： 保護マスク
		眼、顔面の保護具	： 保護メガネ
		手の保護具	： 保護手袋(ゴム手袋など)
		皮膚及び身体の保護具	： 保護靴(長靴など)、保護衣
物理/化学性物質	外 観	： 淡黄色透明液体	比 重： 1.012±0.02(25℃)
	p H	： 10.1	粘 度： 16～22Cp
	溶 解 性	： 水・湯に容易に溶解	安 全 性： 冷暗所で一年以上
	臭	： 殆ど無臭	酸化還元電位： -100mv～-145mv
危 険 性	可燃性、引火性、発火性、爆発性、ばく露性、酸化性、反応性は危険物と違い全くなし。		
有 害 性 情 報 (人体について)	皮膚腐食性	なし	
	刺 激 性	(皮膚)長期に付着した場合、体質によって刺激を受ける場合があり得る	
	急 性 中 毒	ラット経口 LD50：5,400mg/kg	
	亜急性毒性	ラット混餌 0.1g/kg/日 220日	
	慢 性 毒 性		
	癌 原 生		
	異 変 原 生	(微生物、染色体異常) 知見なし	
	催 殖 毒 性		
	催 奇 形 性		
生 体 影 響 情 報	分 解 性	99%以上	
	蓄 積 性	低い	
	魚 毒 性	TLm24(ヒメダカ)4,500ppm	
輸 送 上 の 注 意	容器が破損しないよう乱暴な取扱いを避ける。		
廃 棄 上 の 注 意 残余廃棄物	・下水道以外の河川等、公共水域への排出は避ける。 ・廃棄処理をするときは適切な保護具を着用する。 ・関連法規ならびに地方自治体の基準に従い適切に処理をする。 ・外部に処理を委託する場合は専門の産業廃棄物業者に依頼する。		
汚染容器、包装	・関連法規ならびに地方自治体の基準に従い適切に処理をする。 ・外部に処理を委託する場合は専門の産業廃棄物業者に依頼する。		

適 用 法 令	消防法	非該当
	安衛法	非該当
	毒劇物法	非該当

そ の 他 分 析 値	ヒ 素	限度内（分析結果）
	重金属（Pb）	限度内（分析結果）
	メタノール	限度内（分析結果）

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成しております。
 情報の完全さ、正確性、安全性を保証するものではありません。新たな情報を入手した場合には
 その都度、追加・修正を行い改訂いたします。
 全ての化学品は同一物質でも使用環境や使用者の体質・体調により、一様ではないので
 使用者の責任において適正に取り扱ってください。当安全データシートは日本国内法規要件に対し
 作成しております。他の国々における規制上の要件を満たしているわけではありません。

以上